

歴史の道をゆく

the history of road

亀田街道

③

萱ヶ沢から新波へ

亀田街道の山中地蔵越えルートと松山峠越えルートは、萱ヶ沢跡跡(雄和町萱ヶ沢)前で駒鳴峠越えルートと分かれ、そのまま北上。中村地区で一部区間が失われたのは、旧道にほとんど重なっているという。県道本庄西仙北角館線を進む。

新波地区に入って、道筋の左手奥に新波神社があり、境内全体が雄和町指定文化財になっている。巨大な杉の古木と一面の苔、拝殿と本殿の屋根を背負って支える力士像、竜や獅子などの木彫群は素晴らしい。神社前からやや東に離れた製材所の裏手に「竹の花の一本杉(町指定文化財)があり、根元に「一本杉の地蔵様」と馬頭観音が佇んでいる。この一本杉の前の道が街道で、

北西に進むと道はやがて普門院の少し先で雄物川にぶつかり寸断。舟運の役銭(関税)を徴収していた船番所の跡である。船番所が廃止されて以降は、新波番所は大正

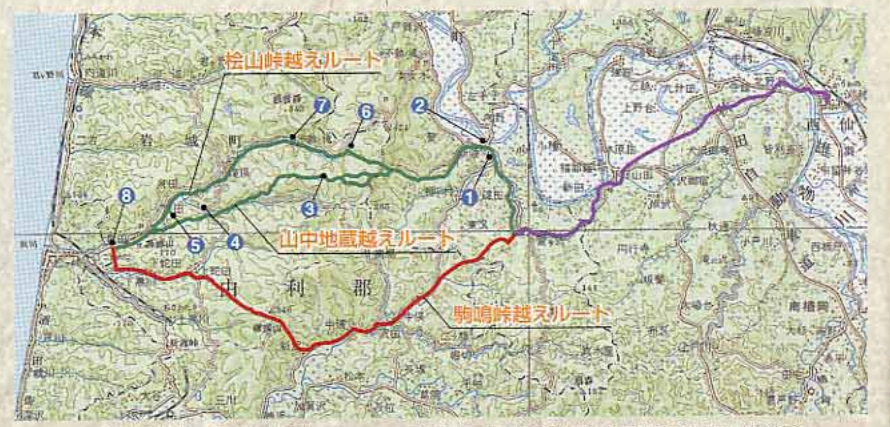
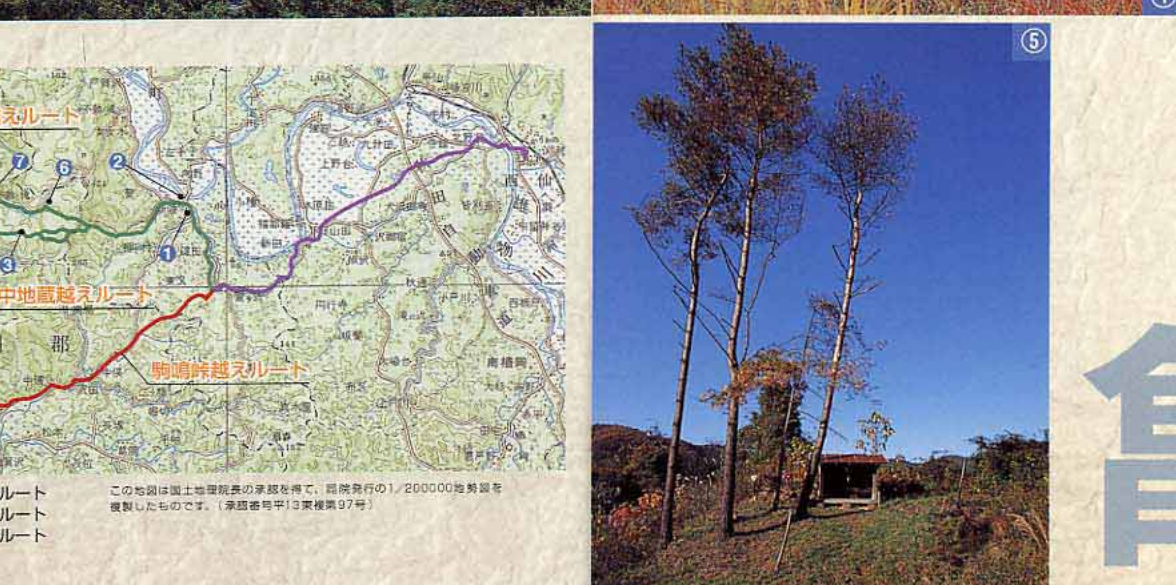
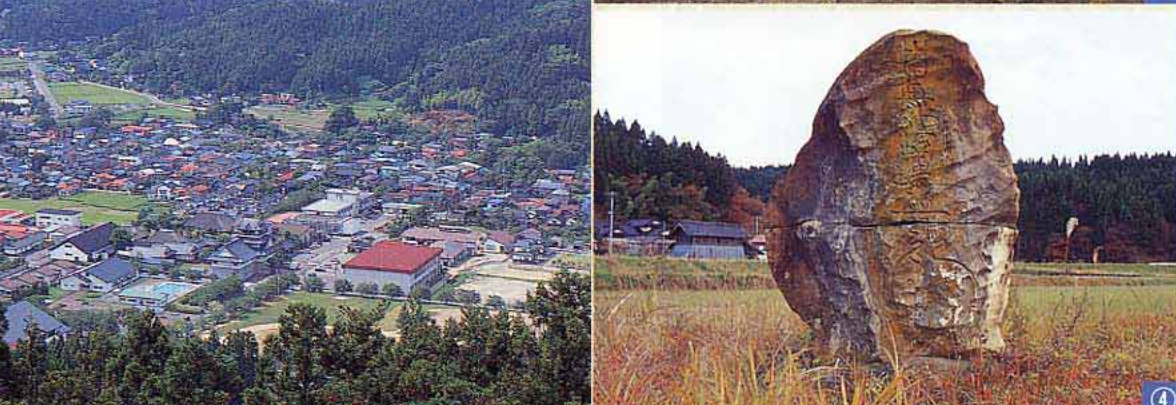
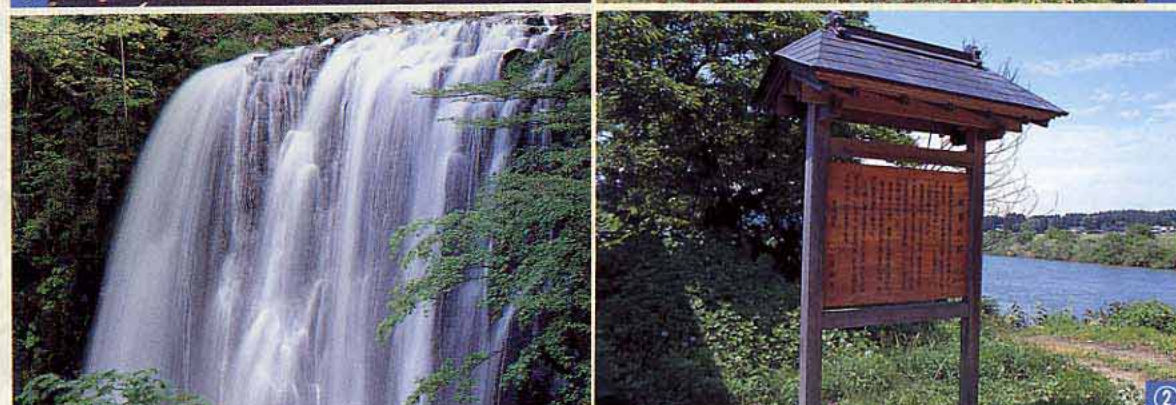
寺小学校のある高台通りに置かれたという。亀田街道は川まで行かず、普門院前を左に進み、さらに左(南西)に向かう。新波温泉の脇の旧道が街道ルートだった。今は行き止まりとなり、田畑の中に消えている。その先の山道も荒廃して、ところどころに道の跡が残る程度。これが新波から山中地蔵および松山峠に向かうメインルートだが、繫を經由する北側の道と、折戸を經由する南側の道も旧街道だったという。

繫ルートは、梵天野バス停角を左折。ほぼ現道と重なって繫集落を過ぎ、やがて一部が田圃に飲み込まれながら山裾に分け入って、メインルートの長根道に北側から合流する。今は相当の敷で、地元の人でないとは分りにくい。合流点から西に2kmほどの地点で、左(南)に分岐していたのが山中地蔵越えルート、直進を続けるのが松山峠越えルートである。

山中地蔵越えルート

山中地蔵越えルートは亀田街道で最も古くからの道だったといわれる。享和元年(1800)新たに標高を90mほど下げた松山峠ルートが開かれて、廃道同然になったというが、その道筋は、松山峠ルートとの分岐からさらに1.5kmほど進んで北寄りの本道と南寄りの「参詣道」に分かれていた。現在この一帯には上繫と福俣を結ぶ林道が通っているが、本来の街道筋は林間や藪の中に消えて明らかではない。

参詣道の途中に、テツラ権現神社がある(テツラ、ダイツラとも呼ぶ)。林道の三叉路に建つ由利森林管理署のプレハブ小屋が「目印」がわり。小屋の少し先の左手(東側)に下がった林の中である。御神体には天狗の嘴(古代鮫の歯の化石)が祀ってあるという。参詣道と本道はテツラ権現の西で合流、やがて山中地蔵に着く。国見の地蔵とも呼ばれる山中地蔵は、福俣地区の人々が今も祀っているということで、福俣側への道



この地図は国土院院長の承認を得て、国産発行の1/200000地形図を複製したものです。(承認番号13東地第97号)

は歩きやすくなっている。福俣集落の東の外れに大杉が二本立ち並び、三角形の自然石がある。旧道は山側からこの地点に出てきていたとも伝えられる。

福俣地区を過ぎた街道は自動車道から左に分かれて山を辿り、農道に下りて進む。亀田の町から数百メートル手前の道筋右手に小さな築山と地蔵堂があり、一里塚跡との伝承もあるという。この辺りの道は、地形からも雰囲気からも、本来の街道と重なっているようだ。愛宕町バス停前のT字路に出て、亀田の町並みへ。ここが、松山峠越えルートとの合流点でもあった。

松山峠越えルート

松山峠越えルートは峠を越えた後、国道31号に合流する。分岐には「右松山峠 左高尾山」の標識がある。この間の山道は藪が密生し、歩行に難儀する箇所も少なく

い。以後、亀田不動ノ滝や瀧田神社の脇を通り、宮ノ下地区、泉田地区を経て富田の先で左折すれば、亀田の愛宕町バス停のT字路に出る。

両ルートが出合って町の中心部に向かい、ぶつかる正面が大手門跡。隣が藩校長善館跡。亀田陣屋は左手、高城山の山裾にあったという。龍門寺の岩城家墓所は具指定史跡。山の上に霊廟があり、岩城重隆坐像は県指定有形文化財になっている。妙慶寺には、シーボルト事件にかかわったことで、文政13年(1830)、同寺に永年となった、オランダ通詞・馬場為八郎の墓もある。

岩城氏二万石の本拠・亀田陣屋は、幕末になって亀田城と呼ばれるようになった。町内の武家屋敷や町家などの遺構を移築した「史跡保存伝承の里・天鷲村」には、亀田藩の資料や史実を大切にして亀田城が復元されている。

①新波神社(雄和町新波)

大宝2年(702)創建と伝えられる。亀田藩主などの信仰篤くさまざまな寄進、造営を受ける。祭神は大國主神他10神。

②新波船番所跡(雄和町新波)

亀田藩が雄物川上り船から運上金(役銭)徴収のため設けた繫番所を、延宝年間(1673~1681)に新波に移設したもの。

③テツラ権現(岩城町福俣)

うっそうと茂る杉林の中に社がある。神社の前には沢が流れていて、細い道筋が見られるが旧道かどうかは不明。

④南無妙法蓮華経の碑(岩城町福俣)

泉田から福俣をとり上蛇田へ向かう道沿いにある。高さおよそ1.5mの自然石に「南無妙…」の文字が彫られている。

⑤泉田の一里塚跡(岩城町泉田)

国道341号の東側を並行して走っている旧街道と思われる道沿いに残っている。一里塚跡というのはあくまでも推定。

⑥松山峠への追分(岩城町滝俣)

国道341号を雄和町境から1kmほど亀田方面に進んだ所に旧道との分岐がある。車での進入は不可。写真右手が松山峠方向、左手が国道341号。

⑦亀田不動ノ滝(岩城町滝俣)

松ヶ崎で日本海に注ぐ衣川上流に懸かる高さ約25mの滝。玄武岩の柱状節理が美しい。傍らに瀧田神社がある。

⑧亀田城下の景観(岩城町亀田)

赤尾津の城(天鷲城)があった高城山から見た亀田の町。岩城氏の陣屋(亀田城)を中心に栄えた城下町だった。